

独立行政法人国立病院機構 東徳島医療センター

やさしい笑顔と よりそう医療

〒779-0193 徳島県板野郡板野町大寺字大向北1-1

TEL 088-672-1171 FAX 088-672-3809 URL <https://higashitokushima.hosp.go.jp/> e-mail 515-KANRIKA@mail.hosp.go.jp

明けましておめでとうございます。年頭にあたり、皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

私が当院に赴任し、重症心身障がい児(者)病棟の患者さんを初めて担当させていただきました。この2年間、患者さんはコロナ禍でご家族との面会制限を余儀なくされ、ほんとうに寂しい思いをされています。しかしながら、ある患者さんは回診のときに私の顔を見るなり「くしゃくしゃ」の明るい笑顔で私を迎えてくれます。そこには自然と笑顔となつている自分と病棟スタッフの姿もあります。患者さんから笑顔をいただいて、逆に主治医の方が癒されている状況にあることにふっと気づかされました。身内の方だけが家族ではない。我々も家族の一員なのです。彼から「やさしい笑顔とよりそう医療」の原点を教えてくださいました。

さて、昨年、国内では明るい話題はあまりみられませんでした。そのような中、年末にはサッカー日本代表が予想以上に大活躍し、少し元氣と幸せをもらった方も多かったのではないのでしょうか。先日、久しぶりに夜の大阪の街を訪れる機会がありました。御堂筋の街路樹には色とり



新年のあいさつ

東徳島医療センター 院長 井内 新

どりのイルミネーションが輝いており、その優しい光の美しさに感動してしまいました。ふと昨年の秋の当院での花火大会が想い出され、当院と支援学校の間にイルミネーションをつけてみたらどうだろうかなどと思いをめぐらせました。

今年は絶対に明るい1年になります。皆さまの笑顔と絆で盛り立てていきましょう。



✦御堂筋のイルミネーション✦

ハッピーハロウィン

重症心身障害児（者）病棟では、「ハロウィンの行事を通して秋を感じてもらい、他の患者さんや職員と一緒に同じ時間を共有する」というテーマで、10月24日より1カ月間、新型コロナウイルスの感染対策をとりながら、療育訓練室と病棟の両会場にて秋行事「ハッピーハロウィン」を実施しました。

「シンボルとなるカボチャのオブジェを作ろう!」という担当者からの提案で、メイン会場となる療育訓練室中央に「巨大なハロウィン城」を制作。ハロウィン城周辺にはコーナー（記念撮影・ゲーム・制作・スタンプラリー・キャンディ探し等）を設置しました。

参加者は職員とペアになり、ハロウィンの帽子やカチューシャ等を身に着け、カボチャ型のスタンプラリーカードを受け取り、個性豊かなカボチャや魔女（療育指導室職員が交代で担当）の案内で、今回の目玉であるゲームコーナー「はろーういーーーーーん」と命名されたゲーム（荷物を積み重ねていき、タワーが倒れたら終了）を行いました。参加者は「タワーがいつ倒れるか?…」ドキドキワクワクしながら、ロープで吊るした荷物を「もう少し右」「ゆっくり降ろして」など、

声かけしながら荷物を積み上げ、タワーが倒れないようゲームを楽しみました。ゲームの後は、各自自由に各コーナーを巡り、スタンプラリーのカボチャの顔を完成させ、ボードに貼り付けました。最後にハロウィン城の前で、全員で記念撮影。参加した皆さん、嬉しそうな表情がたくさん見られました。

医療的ケアが必要なため療育訓練室へ行けない患者さんには、メイン会場である療育訓練室と病室（デイルーム）をオンラインで繋ぎ、タブレットに映し出される他の病室の患者さんや職員と一緒に、ゲームやキャンディ探し、制作を行いました。医療的ケアが必要な患者さんも、オンラインを通じて他の患者さんや職員と交流し、にこやかな表情をたくさん見ることができました。

最後に、これからの行事も「参加している患者さんがどのような事に興味を持ち、どのようにすれば他の患者さんや職員と一緒に楽しめるか?」ということ、療育指導室職員間で検討し、実施できればと思っています。

（療育指導室 主任保育士／大塚 克洋）

※写真の使用はご家族の了承を得ています。



患者さん一人ひとりが作成し、ボードに貼り付けたカボチャのスタンプラリーカードは、クリスマスストーリーに変身。



第1回 東徳島医療センター 花火大会



10月19日、待ちに待ったその日がついにきました。第一回東徳島医療センター花火大会!!

当院は、医療サービス向上委員会があります。この委員会は、文字通り東徳島医療センターのサービス向上を目的に毎月開催されています。5月の委員会で花火大会実施の提案が行われました。せっかくなら花火業者さんに依頼をして、空に大輪の花を咲かせたい!!患者さんと職員がコロナ禍の制限された中で楽しい時間を!!!と動き出しました。

話は戻って、花火当日、昼過ぎから花火準備が業者さんの手によって始まりました。草刈りをした旧病棟跡地に仕掛け花火が組まれていきます。どんな花火になるのかドキドキワクワクです。

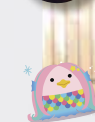
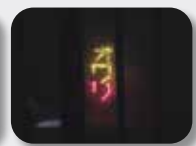
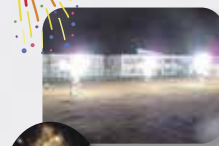
いよいよ日も落ちて19:00。井内院長の挨拶、カウントダウンで花火開始!大きな花火の音とはじけ飛ぶ光。東徳島医療センターに花火がはじけました。吹き出す噴水花火やくるくる回る火車、そして、80mにおよぶナイアガラ、最後にはオワリの文字まで。あっと言う間の花火の時間。病棟からはたくさんの患者さんと職員と一緒に花火を楽しんでくださったようです。「よかった」「またみたーい」「次はいつー」の言葉が歓声とともに聞こえてきました。

病棟の横からは地域の方や院内保育園の園児さん、また隣接する特別支援学校の生徒さんや先生にもみていただけ大きな拍手と歓声をいただきました。

新型コロナウイルス感染症の影響で色々な制限がある中での実施でしたが、患者さん、職員、地域の方々に楽しい時間を過ごせてもらえたようで一安心でした。

最後になりますが、花火大会実施にあたり、ご協力いただきました近隣住民の方々ありがとうございました。

(療育指導室 主任児童指導員/佐々木 智也)



オンライン〇〇



放射線科 手塚 美貴

「オンライン〇〇」という言葉は、2020年の「現代用語の基礎知識」選ユーキャン新語・流行語大賞で、トップ10に選ばれた言葉です。コロナ禍により人が集まる活動が困難となり、オンライン授業、オンライン診療など、多くのオンライン〇〇が生まれました。オンラインとは一般的に「インターネットに繋がっている状態」を指していましたが、さらに「通信機器を使った人同士の会話、会議、交流などの事」という意味が加わりました。

言葉の流行からかなり遅れ、ようやく私もオンラインという言葉に慣れてきました。一番初めに利用したのはオンライン学会でした。聴講のみのため、初めて参加した時には、こちらのカメラがきちんとoffになっているか不安で、カメラを不透明テープでふさいで参加しました。今までは講演が同じ時間に重なっている場合、どれか1つしか聴くことができず、残念な思いをすることがありましたが、オンライン学会ではライブ配信の他、オンデマンド(録画)配信もされており、都合のいい日時に、より多くの講演を聴く事ができました。

仕事以外ではオンラインでミニ同窓会を行いました。中学校バスケット仲間と定年退職されたばかりの顧問の先生に連絡(卒業アルバムに住所録があり、時代を感じます)すると、8割弱が出席してくれました。乾杯の音頭や場を盛り上げるのはお任せできたので、懐かしいメンバーと楽しく過ごすことができました。

その後も連絡のとりやすい範囲で中学校のクラス会や

学年会、大学同期生とオンライン飲み会/お茶会を行いました。文集に書いた将来の夢を叶えている人、驚きの職業についている人、コロナ禍の影響を受けて大変な人、今は〇〇県にいるなど、いろんな情報を得ることができました。学生時代にはほとんど話をしたことがなかった人と話せたのも貴重でした。また、赤ちゃんから大学生までの子供さんが登場し、その成長ぶりに驚き、親の顔をした同級生を見ることができたのも新鮮でした。意外にもほとんどの人がオンライン飲み会は初めてで、入室できない、映像が固まる、声が聞こえないなど、トラブルも続出しましたが、皆の優しさのおかげで、なんとか円満に終わることができました。

実際に集まってコミュニケーションをとることにはかたがたですが、感染リスクが無い、マスク無しで話せる、さらに県外にいる人や家庭を持っている人でも参加しやすいなど、コロナ禍が明けてもオンラインは活用できると思いました。

新しい年に何か始めてみようかなという方は、少し離れている人に「オンライン飲み会/お茶会せーへんで?」と声をかけてみてはいかがでしょうか。



糖尿病で通院中の患者さんへ

あなたの足は大丈夫？

糖尿病の方は、足のトラブルを起こしやすく、壊疽まで進行し足を切断しなければならない状況になることもあります。一生自分の足で立ち、歩くためには足の病気にならないようケアする必要があります。

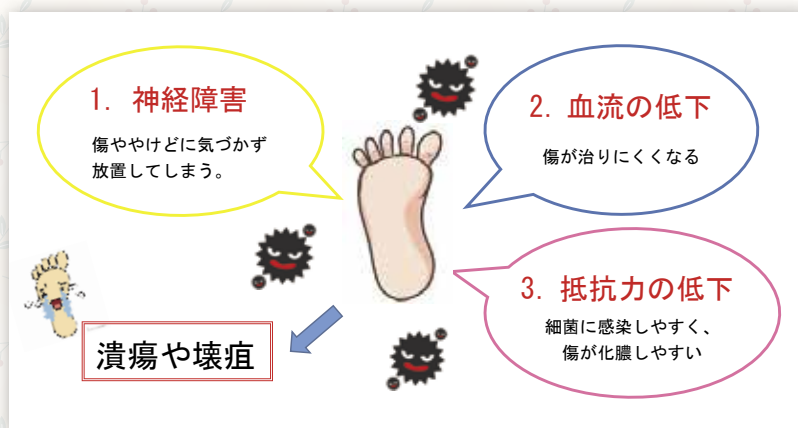


なぜ足のトラブルを起こしやすいのでしょうか？

① 糖尿病神経障害があると、痛みを感じにくくなります。足に傷ができたり、細菌が入って化膿したりしても、痛みがないことで発見が遅れ、気づいたときには大きな傷になっていることがあります。また、汗をかきにくくなり皮膚が乾燥しやすくなるので、皮膚を守る力も弱くなります。

② 糖尿病患者さんの足の血管は、動脈硬化を起こしやすく、血液を足に運ぶ道が狭くなるため、栄養不足や酸素不足になることがあります。そのため足に傷が出来てしまったときに栄養と酸素が足りない状況や、治療薬が細胞まで十分に運べないことによって、傷が治るまでに時間がかかってしまいます。

③ 血糖値が高い状態が続くと、傷を治してくれる血液の細胞の動きが弱くなったり、反応が遅くなったりします。そのため、体に菌が入ったときに戦う力が弱くなります。小さな傷から菌が侵入しても即座に戦うことが出来ず、感染が広がりやすくなります。



⇒以上の1.2.3.が重なることで、糖尿病患者さんは足のトラブルを起こしやすいです。足のトラブルは靴擦れなどの小さな傷から始まることが多いので、早く傷に気づけるように、日頃から足を見ることが重要です。

ご自身の足に、魚の目、たこ、水虫はありませんか？目が見えにくい、手に力が入らないなどで爪が切れないことはありませんか？当院にはフットケア外来があります。

フットケア外来は、糖尿病の治療をされている患者さんが足の病気にならないよう、爪を切ったり、足の手入れの仕方をお伝えする外来です。足の病気は予防することが出来ます。大切な足を、あなたと一緒に医師、看護師で守っていきたいと思っています。足のことでお悩みの方は、主治医や看護師にお気軽にご相談ください。

フットケア外来：毎週火曜日（日時のご相談に応じます）

場所：整形外科外来処置室

費用：170～510円（自己負担割合により変わります）

受付窓口：東徳島医療センター 内科外来（主治医や看護師にご相談ください）



（糖尿病看護認定看護師／大花 美千代）